



# - 女が書く、女を書く -

## 文学の中の 在日朝鮮人女性

国際高麗学会日本支部学術大会のシンポジウムテーマに「女」が取り上げられるのは初めてです。2018年12月にチョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』（筑摩書房）で一気に加速化したといわれる日本での韓国女性文学ブームは現在も絶賛進行中であり、2017年全米図書賞最終候補となったコリアン・アメリカンのミン・ジン・リーによる『パチンコ』が2020年には日本語訳出版され、柳美里『JR上野駅公園口』（モーガン・ジャイルズ訳『TOKYO UENO STATION』）が2020年の全米図書賞（National Book Award 翻訳文学部門）を受賞、と枚挙にいとまがありません。そこで、今シンポジウムでは、こうした現象を生み出す主体でもあり客体でもある在日朝鮮人女性と文学という観点から、「女が書く」とは、「女を書く」とは、いかなる営みなのか読み解いていきたいと思ひます。

# 国際高麗学会日本支部創立 30 周年 第 25 回学術大会 プログラム

10:00-12:00 【第一部】 自由論題

当資料の転載及び無断引用を禁止します

司会：全 ウンフィ さん（大阪市立大学）

報告①「韓国政府の慰安婦問題への対応と日韓関係」

関 智焄 さん（立命館大学東アジア平和協力研究センター）

報告②「在日コリアンの母国留学—ライフスタイル移住の視点から—」

今里 基 さん（立命館大学大学院）

司会：孫片田 晶 さん（立命館大学）

報告③「在日大韓基督教会の歴史に見る韓国人被爆者救援活動」

高橋 優子 さん（広島女学院大学）

報告④「『素晴らしくて楽しい』実践の模索—戦後日本における雑誌

『日本のなかの朝鮮文化』の位置づけをめぐる研究可能性について」

山口 祐香 さん（九州大学アジア・オセアニア研究教育機構）

12:30 国際高麗学会日本支部 総会

13:00-17:00 【第二部】 公開シンポジウム

## 『女が書く、女を書く -文学の中の在日朝鮮人女性-』

### パネリスト

宋 恵媛 さん | 大阪市立大学

『初期在日朝鮮人文学における女性表象—1970年以前の小説を中心に』

鄭 鎬碩 さん | 聖学院大学

『戦後を生きる「オモニ」—在日朝鮮人の母性表象の一断面』

高橋 梓 さん | 一橋大学

『金史良の日本語作品に描かれた朝鮮人女性』

原 佑介 さん | 金沢大学

『日本近代文学にあらわれた「不逞鮮人」と朝鮮人女性

—田宮虎彦「朝鮮ダリヤ」と中西伊之助「不逞鮮人」を手がかりに—』

### コメンテーター

浮葉 正親 さん | 名古屋大学

洪 ジョンウン さん | 大阪市立大学

岡崎 享子 さん | 立命館大学

### 司 会

伊地知 紀子 さん | 大阪市立大学

## パネリスト

宋 恵媛

|ソン ヘウォン

大阪市立大学。博士(学術)。日本、米国、旧ソ連等のコリアンディアスポラを、言語、文化、文学、ジェンダーの観点から研究。著書に『「在日朝鮮人文学史」のために：声なき声のポリフォニー』(日本版・韓国版)、編著に『在日朝鮮女性作品集』、『在日朝鮮人文学資料集』、『続在日朝鮮人文学資料集』(共編)、訳書にキース・ブラット『朝鮮文化史：歴史の幕開けから現代まで』など。論文に「尹紫遠日記を読む：戦後日本で在日朝鮮人が書くということ」、「米軍通訳たちの文学史：二つの帝国と近現代“朝鮮文学”」(朝鮮語)、「在日朝鮮女性の歴史叙述に向けて」、「在日朝鮮一世女性と文学：植民地以後の女たちの移動とエクリチュールをめぐる考察」など。

高橋 梓

|タカハシ アズサ

一橋大学大学院言語社会研究科 日本学術振興会特別研究員(PD)。研究分野は朝鮮近代文学、植民地期の朝鮮人作家の日本語創作。東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士後期課程単位取得満期退学。博士(学術)。高麗大学校民族文化研究院研究教授(2020年度)を経て現在。東京外国語大学・津田塾大学・一橋大学非常勤講師。共著に、波田野節子・斎藤真理子・きむ ふな編著『韓国文学を旅する 60章』(明石書店、2020年)、小平麻衣子編著『『文藝首都』—公器としての同人誌』(翰林書房、2020年)。共訳書に、徐智瑛著、姜信子・高橋梓訳『京城のモダンガール—消費・労働・女性から見た植民地近代』(みすず書房、2016年)。論文に、「金史良の朝鮮語作品「チギミ」と日本語作品「蟲」の改作過程の考察—朝鮮人移住労働者の集住地をめぐる表現の差異」(『朝鮮学報』第247輯、2018年4月)、「移動と創作言語から見る金史良文学の生成—日本と中国への移動の経験を中心に」(『仇甫学報』第24号、仇甫学会、2020年4月)、「金史良の翻訳と日本語創作に見られる「方言」をめぐる考察」(『東方学志』第191号、延世大学校国学研究院、2020年6月)など。

鄭 鎬碩

|ジョン ホソク

聖学院大学政治経済学部政治経済学科教授。メディア・文化研究。(韓国)ソウル大学国際大学院卒業(国際地域学・日本地域研究専攻・文学修士)。東京大学大学院情報学環・学際情報学府博士課程単位取得後退学(社会情報学博士)。東京大学大学院情報学環特任助教(現代韓国研究センター)、聖学院大学基礎総合教育部准教授などを経て現職。「『貧者の想像—アントニオ・ネグリにおける『想像』をめぐる—』(『思想』No.1024)、『‘모국공헌’의 시대—재일상공인과 한국 경제』[「母国貢献」の時代—在日商工人と韓国経済](2020、Hanul Academy) (共著)、『경계와 재현—재일 한인의 국적, 사회 조사, 문화표상』[境界と再現—在日韓人の国籍・社会調査・文化表象](2020、Hanul Academy) (共著)など。

原 佑介

|ハラ ユウスケ

金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系准教授。専門は日本近代文学、ポストコロニアル研究。1980年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程・立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程修了。著書に『禁じられた郷愁—小林勝の戦後文学と朝鮮』(新幹社、2019)、論文に「植民地郷愁を撃て—小林勝「『懐しい』と言ってはならぬ」と「日本人中学校」」、『コリアンスタディーズ』5号(国際高麗学会、2017)、「식민자의 아들이 싸운 한국전쟁: 고야야시 마사루의 문학과 반전운동」허은, 오타 오사무 공편『동아시아 냉전의 문화』(소명출판, 2017)など。

## コメンテーター

浮葉 正親

| ウキバマサチカ

名古屋大学国際言語センター教授、専門は文化人類学・民俗学、在日朝鮮人作家を読む会会員、論文に「ミン・ジン・リー『パチンコ』に見る「在日」の世界」『抗路』8号(2021)、「磯貝治良の中期作品における在日朝鮮人像の形成—少年時代の「朝鮮体験」を生き直す」『名古屋大学日本語・日本文化論集』21号(2014)ほか。

洪 ジョンウン

| ホンジョンウン

大阪市立大学大阪コリアン研究プラットフォーム特任助教。在日コリアン女性と家族について研究中。梨花女子大学卒業、梨花女子大学一般大学院修士課程修了(女性学専攻)。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。

岡崎 享子

| オカザキリョウコ

立命館大学大学院文学研究科現代東アジア言語・文化学専修修士課程修了、同専修の博士課程在学中。2020年度日本学術振興会特別研究員(DC2)。専門は在日朝鮮人文学。在日朝鮮人一世の詩人金時鐘の研究を行なっている。